

論文番号 24

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Factors associated with ischemic stroke during aspirin therapy in atrial fibrillation: analysis of 2012 participants in the SPAF I-III clinical trials. The Stroke Prevention in Atrial Fibrillation (SPAF) Investigators.

アスピリン療法中の心房細動患者における脳虚血発作に関連する要因

執筆者

Hart RG, Pearce LA, McBride R, Rothbart RM, Asinger RW.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Stroke. 1999 Jun.; 30(6): 1223-9,

キーワード

心房細動・脳塞栓・エストロゲン・危険因子・脳卒中予防

要旨

背景と目的: 弁膜症に起因しない心房細動は脳卒中の大きな独立した危険因子である。しかし予防的な抗凝固療法に大きく影響されるため、心房細動を有する患者中の脳卒中の発症率は大きく異なっている。そこで我々はアスピリン服用中の心房細動患者における脳虚血発作に関連する要因を探索した。

方法: SPAF I-III 試験でアスピリン単独あるいは低用量ワーファリン (平均 2.1mg/日) との併用投与を受けている 2,012 名 (平均年齢: 69±10 歳) の心房細動患者を平均 2 年間追跡調査し、多重ロジスティック回帰分析を行った。

結果: 追跡期間中の脳虚血発作の発症は 130 例、脳出血発作は 5 例であった。130 例の脳虚血発作のうち 71 例 (55%) が心原性、24 例 (18%) が非心原性と思われ、2/3 は致死性あるいは障害を残すものであった。年齢 (RR=2.0, p<.001)・性別 (女性が男性の 1.6 倍, p=0.01)・高血圧の既往 (RR=2.0, p<.001)・160mmHg を超える収縮期血圧 (RR=2.3, p<.001)・脳卒中あるいは一過性脳虚血発作の既往 (RR=2.9, p<.001) がそれぞれ独立した危険因子であった。週あたり 14 本以上のアルコール飲料の摂取は脳虚血発作のリスクの減少と関連していた (調整済み相対危険度 0.4, p=0.04)。SPAF III の研究参加者では、エストロゲン補充療法を受けているものは脳虚血発作のリスクが高かった (調整済み相対危険度 3.2, p=.007)。これらの変数を用い、一次予防のための risk stratification schema により脳卒中高リスク群 (7.1%/年、集団の 22% を占める)、中リスク群 (2.6%/年、同 37%)、低リスク群 (0.9%/年、同 41%) へ分類したところ、低リスク群での脳虚血発作は障害を残すものが少なかった (p<.001)。

結論: アスピリン療法中の心房細動患者における脳卒中の危険因子を見出すことができた。しかし臨床での患者管理への適用前に、risk stratification schema の妥当性を検証することが必要である。閉経後のエストロゲン補充療法と適度なアルコール摂取は心房細動患者での脳卒中のリスクを変化させるものであると思われたが、これに関してはさらなる研究が必要である。